

「安曇野穂高ビューホテルで昼食と温泉」と「碓山美術館」の小旅行

長野支部長 上原 昇

長野支部活動として、今年は猛暑と異常（ゲリラ豪雨など）な気象予報から、不安な天候を気にしながら、JR長野支社企画の「快速リゾートビューふるさと」で行く、大系線日帰り列車の旅に参加し便乗する小旅行を計画しました。

私達は日帰り列車の旅から「安曇野穂高ビューホテルで昼食と温泉」と「碓山美術館」のコースを選びました。当日は連日続く異常気象（大雨、突風）でしたが悪天候の合間の晴れ間に恵まれ、9月6日（金）に小旅行を実施いたしました。

当日は支部会員 7名、と会社退職女性 4名、合計 11名が参加しました。

長野駅5番線ホームには、2両編成の「快速リゾートビューふるさと」が入線しており、展望室が配備の全車指定席です。席に着くと早速アルコールで乾杯となり賑やかな楽しい列車旅となりました。



後列：石川、工藤、近藤、岡部、矢島、川久保、田中、前列：北島、上原、水野、吉原、（姨捨駅で）

長野駅から25分程で姨捨駅（千曲市）に到着しました、今では珍しくなった「スイッチバック」を楽しみ、日本三大車窓と云われている景色を眺め、ここで記念撮影、車内やホームの展望デッキで聞く、アテンダントの「名月の里、おぼすて（田毎の月）」観光案内、そして「俳（おもかげ）や、姥（うば）ひとりなく、月の友」と、俳聖松尾芭蕉が姨捨の月に憧れて旅をし「更科紀行」に詠まれ、連なる棚田と田毎に映る名月は美しい風景のひとつとして知られています。現在も25畝、約200枚の棚田が整備され、

春先ともなれば、向かいの鏡台山から昇る月が、田植えを待つ水面にひとつひとつ小さな影をおとしている。中秋の名月の頃には「信州おぼすて観月祭・全国俳句大会」を兼ねた、「名月の宴」が開かれ、「信濃では、月と仏と、おらがそば」と古き時代から変わらぬ月の傍に酔いしれる。ここで、何方かに一句をとご提案しましたが、名月や・・・となり「快速・ふるさと」は、松本駅から大系線に入りました。

自然の涼風が心地いい車窓から安曇野の美しい景色を眺めていると、穂高駅に到着です。私たち一行はここで下車し、穂高神社の巫女さんに「穂高神社とお船会館」に案内され参拝しました。「穂高見命を御祭神に仰ぐ」穂高神社は安曇野市穂高にあります。「嶺宮は北アルプスの主峰奥穂高岳の頂上」に祀られており、その「奥宮は穂高岳の麓の上高地明神池畔」に祀られています。穂高見命は海神族（かいしんそく）の祖神（おやがみ）であり、その後裔（こうえい）である安曇族はもと北九州に栄え主として海運を司り、早くから大陸方面とも交渉をもち、文化の高い氏族であったようです。



穂高神社で巫女さんの
神社説明を聞く

醍醐天皇の
延長五年（西
暦927年）
に選定された
延喜式の神名
帳には名神大
社に列せられ
て古くから信
濃における大
社として朝廷
の尊崇篤く殖

産興業の神と崇めら
れ、信濃の国の開発

に大功をたてたと伝えられています。皆さん、夫々神社に家内安全、交通安全、身体健全、厄除け祈願等、その他幾つも祈願をされた様ですが、私もお賽銭の音から“神様もお困りかな”とふと思いつながら参拝しました。お船会館には古くから伝わる穂高神社例祭で曳き出される船型の山車独特の技法と穂高人形で飾り付けをした船、安曇野の宝である神宝、古代鋤、古面、勾玉、菅玉、直刀、古文書など、信濃の貴重な展示物も展示してあるとのことでした。

次いで私達一行はホテルの迎車で穂高ビューホテルに到着しました。約42,000坪のカラマツ林の広大な森に囲まれたホテルは、安曇野の広い空と涼風を感じ、目に迫る北アルプスの山々、振返れば常念、蝶ヶ岳が間近に感じられました。昼食は和食を選択、安曇野の自然がもたらす旬の食材を用いた料理と信州そばが並ぶ。気ままな仲間とのゆるゆる会話を楽しむ昼食は至福の時間となりました。そして天然温泉かけ流しの豊富な湯に身を浸す快楽はなんともいえず、湯上りの一口の泡、庭園に湧くアルプスの名水をいただき、まさにリゾート感覚。心身の保養と”癒し”を堪能しました。遊歩道は、大きな樺、水神様、烏川

渓谷、調整池を巡るカラマツ森林内の散策ができます。ホテルのバスで穂高駅に送ってもらい次の見学地碌山美術館に徒歩で約10分、脚の弱い方に車いすを借用し初秋の気配を感じながら向かいました。

赤レンガ造りの建物、碌山美術館は日本近代彫刻の扉を開いた萩原守衛（碌山）の作品と資料を永久に保存し一般に公開するために、昭和33年4月碌山の生地北アルプ

スの麓安曇野に30万人の寄附と支援により開館しました。

碌山と優れた芸術家たちの彫刻作品、絵画作品をあわせて蒐集保存、碌山館、杜江館、第一展示棟、第二展示棟に展示した作品を鑑賞しました。

帰りの列車内では、リクライニングシートに身を委ね心地よさを楽しむ人、元気な高齢者がコップ酒片手に今日の旅の反省と、女性の皆さんと懐かしい思いで話しに老いを忘れ、また漫談噺を面白く話す仲間と、賑やかに聞き笑う女性の声で時間が過ぎ、無事に長野駅到着となりました。次回もお互い健康に気を付け参加できるよう約束し、駅のホームで解散しました。

以上